

## 47 奈良倉山・鶴寝山

な ら くら やま つる ね やま

1 3 4 9 m ・ 1 3 6 8 m

山梨県

大久保 博

奈良倉山は、富士山の眺望のビューポイントとして大月市「秀麗富嶽十二景」第五番に選定されていて、山頂からは大月市のほぼ全域を展望できる。また、鶴寝山は、巨樹を巡るコースが楽しい山である。若葉の萌える新緑の頃と紅葉の頃が最高の登山時期で、鶴寝山頂付近にはニリンソウの群生地がある。そして、戦国の歴史・哀話を秘める松姫峠がコースの中間地点に位置する。

JR上野原駅から春、秋の季節限定のバスに乗る。途中、沿道を所々飾るユーモラスな人形たちの出迎を楽しみながらバスに揺られていくと、近年ヒカゲツツジで脚光を浴びている坪山への登山口・八ツ田のバス停を過ぎる。バスが県道上野原・丹波山線の狭い舗装道路の七曲がりを含みながら越えていくと標高850mの鶴峠バス停で下車する。そこから登山開始である。入口の道標に従って唐松林や檜の植林地を登っていくと35分程で林道と交差する。ここは、目の前に三頭山の全貌を眺められるポイントである。さらにスマレヤカタクリ、チゴユリの咲く植林地を行き、雑木林の中のつづら折りの急登を少々我慢して登ると松姫峠への分岐点に出るので左へトラバース気味に20分程登ると待望の小広い奈良倉山山頂である。

山頂が平らなことからの名だろうか、かつては茅平とも呼ばれた。二等三角点が設置されている。50m程南にある「展望台」で御正体山など前衛の山の背後に裾野を広げた富士山の眺望をゆっくり楽しもう。

松姫峠へは五分程下った林道の方が尾根道よりも良い。富士山のパノラマを満喫しながら林道を歩くことにしよう。35分で国道139号線の通る大月市と小菅村の境である1250mの松姫峠に着く。峠にはトイレがあり、車が数台停められる展望場である。

松姫峠の名前の由来は、松姫がここを越えたからとされる。松姫は武田信玄の娘で悲運・清純の姫君として歴史に登場する。松姫は幼い時に政略結婚で敵方の織田信忠の婚約者となった。詳しくは不明だが、婚姻関係が破棄になった後も2人に何らかの交流はあったようだ。信玄亡き後、家督を継いだ武田勝頼が織田信忠らに攻められ天正10年(1582)3月11日、天目山にて自害し、甲斐武田家が滅亡した。生き残った松姫はこの峠道を通って八王子に逃げ延びたと伝えられる。ただ、あまりにも厳しいこの峠道を通じたとは考えられない。

明治以降に新しく開通した新道路の峠名として、山梨県知事が松姫伝説に思いを寄せて命名したらしく、事実は移動に無難な甲州街道を使って八王子に出たと考えられているよ

うだ（相模原郷土の歴史研究会より）。なお、松姫は髪をおろし信松尼となり武田一族と信忠の菩提をとむらい、八王子の信松院で松姫を保護援助した徳川家康の没年と同じ元和2年（1616）に56歳の生涯を終えた。

さて、松姫峠から、道標に従って牛ノ寝尾根を大菩薩峠方面に向かう。雑木林の中を20分程行くと鶴寝山の分岐になる。右はニリンソウの咲くなだらかコースで山頂は通らない。まっすぐ尾根筋を10分程進むと鶴寝山山頂である。富士山展望を満喫し、西にブナの巨木群の中を下ると15分程で山沢入りのヌタに着く。ここから小菅の湯へ下る。途中には推定樹齢6百年のトチの巨樹がある。さらに下ると清流の恵みワサビ田を左右に見るようになり、ほどなく小菅の湯に着く。ゆっくりと高アルカリ性の温泉を堪能することにしよう。



小菅の湯からは富士急山梨バスでJR上

野原駅に戻るか、村営バス・田元橋経由西東京バスでJR奥多摩駅に出る。

コースタイム：鶴峠バス停（90分）奈良倉山（40分）松姫峠（30分）鶴寝山（30分）山沢入りのヌタ（30分）小菅の湯

二万五千円：七保

交通機関：富士急山梨バス・上野原営業所（※季節運行） 0554-63-1260

西東京バス・氷川営業所 0428-83-2126

問い合わせ先：小菅村役場 0428-87-0111

最寄りの温泉：多摩源流「小菅の湯」 0428-87-0888